

まさかの帰郷

第 19 期 OB 三浦 公暉

皆様、ご無沙汰しております。小野ゼミ第 19 期の三浦です。社会人となり経験のないことだらけの日々を乗り越えることに必死で、ゆっくり 1 年を振り返ることもできなかつたため、この機会に 1 年を振り返りながらエッセイを執筆させていただきます。

◆耳を疑った配属先

「三浦さん、北九州支店です」。入社式と自己紹介や軽い庶務連絡を終えた入社初日の就業後、研修クラスにて 1 人 1 人が配属先を発表される中、自身の配属先を聞いた時の驚きは忘れません。東京配属を希望し、「最近希望通りの場所に行く人が多いよ。」と聞いていたため、おそらく関東で勤務できるだろうと思っていた中での北九州。私が高校生まで過ごした山口県下関市は家から北九州が見えるほどの場所であり、下関の若者が遊ぶ場所と言えれば電車で 20 分先の北九州でした。大学入学を機に上京し、もう地元で暮らすことはないだろうと思っていた中で、ほぼ地元と言える北九州への配属、馴染みがあり好きな場所ではあるものの、少しなんとも言えない気持ちになりました。地元の友達もほとんどが大学入学や就職を機に地元を離れているため戻っても友達がない、親も転勤で下関から少し離れた場所に住んでいるため実家もない、これから経験したことのない社会人生活を北九州でやっていけるのか不安になりながら、みなとみらいでの 2 週間の研修を終え、行き慣れた北九州へと半ば落ち込みながら向かいました。(親は近くに帰ってきたことを大笑いしながら少し喜んでいたのでそれだけは良かったかもしれませんが...)

◆ここで良かったのかもしれない

先程までマイナスなことばかり書いてしまいましたが、北九州に来て約 9 か月が経った今、初任店が北九州で良かったのかもしれないと思い始めてきました。不安 100% で飛び込んだ北九州支店への入社初日、高校生の頃まで毎月のように遊びに来ていた場所への入社、遊び場が仕事場になる違和感が少しありました。入社してみると、比較的小さい支店で、しかも 1 年目が私しかいないということもあり、先輩方や上司の方との距離が非常に近く、皆さんが事あるごとに気にかけて下さりました。先輩方の話を聞いていると、皆さん何かしら山口や九州にゆかりのある方ばかりで、「あー、だから自分が北九州なのか」と少し納得しました。

そんなこんなで先輩方にたくさん相談に乗っていただきながらなんとか毎日を過ごし、10 月からはどうとう私も担当先を持つようになりお客さんのもとへ営業に行く日々。他の支店の同期が 1 人で行って何を

話せばいいかわからないと言っている中、私はお客さんとひたすら地元話をして盛り上がる毎日。少し人見知りな私にとって、こんなにも強い共通の話題があるのは北九州に配属となったおかげでした...助かりました。

そしてプライベートでも、研修で仲良くなった同期が北九州に遊びに来てくれたり、先輩方や他社の方々と月に一度フットサルをしたり、先輩方に頻繁にご飯に連れて行ってもらったりと、何もしない日がないと言っていいほど毎日充実した日々を過ごしています。社会人1年目という大きく環境が変わった中で、馴染み・親しみのある場所で、先輩方にも恵まれた初任店北九州は、今となってはすごく良かったと思っています。おそらくあと1年ちょっとで異動となり、今度こそここまで地元に近い場所で働くことはないはずなので、親孝行もしつつ充実した日々を過ごしていきたいと思います。皆さんもぜひ福岡や山口に遊びに来てください！心からお待ちしております。遠方ではありますが、私もできるだけゼミイベントに参加できたらと思います。またお会いできる日を楽しみにしております。



意外と都会な北九州（小倉駅前）



ホークス観戦に行きやすくなりました。